

# 國民學校と國民幼稚園

(三)

— 文部省講習會講述速記 —

倉 橋 惣 三

## 講義要項

- 一、國民學校教育の精神  
國民普通教育の改革——教育審議會の答申——國民學校教育の本旨——「皇國ノ道ニ則リテ普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲ス」と
- 二、國民學校の教育方針と學科  
國民學校の教育の目的の主眼點——國民學校の教育の方法の強調點——國民學校の教科  
教育審議會の答申——小學校と幼稚園との從來の關係——幼稚園の國民教育上の位置
- 三、國民學校と幼稚園  
教育審議會の答申——小學校と幼稚園との從來の關係——幼稚園の國民教育上の位置
- 四、幼稚園の史的考察  
フレイベルの幼稚園——我國に於ける幼稚園——人文的、心理的、社會的——幼稚園の國民教育性——國民幼稚園  
從來の問題の検討——從來の低學年と新低學年——教科の統合——綜合教授問題
- 五、幼稚園と低學年との聯絡
- 六、幼兒保育者としての國民學校教科の研究  
國民學校教科の教授要旨——國民科——理科——體操科——藝能科——實業科
- 七、我國幼稚園の將來  
幼稚園の國民教育的充實——幼稚園の國民教育的普及——國民幼稚園の非階級性と多様性
- 八、幼兒保育者の責務と自重  
幼兒保育者の責務——幼兒保育の目的内容と幼兒保育方法の特質——幼稚園と家庭——幼稚園保母の向上と養成——幼稚園保育者の自重

## 四 國民幼稚園

### (一) 幼稚園の國民教育的認識

昨日まで國民學校のこゝをいろいろ考へました。或は國民學校を通じて今回の教育刷新そのものこゝを考へました。或は今回の教育刷新の本旨に基いて國民學校のこゝを考へました。それを元として幼稚園も亦こゝに新なる考を加へ來らなければならんのではなからうか、こゝにお話にまで來たのであります。そこで昨日の終ひには一つの結論をしまして教育審議會の權威ある答申が幼稚園といふ問題に就ても、師範學校、國民學校と同様に重要な用意を拂つて居られるこゝを申しました。

殊に昨日讀みました教育審議會總裁の答申の言葉を、更に教育審議會特別委員會、委員長田所氏から細かに解説を下して居られますが、その解説に於きましては、愈々益々幼稚園重要な意味が徹底させられて居るのであります。そこにはいろいろの意味合ひが含まつて居ると思ひますが、私は昨日そこから最も重要な一つを抜き出しました。即ちこれによつて幼稚園といふものが國民教育の必須なる要素として考へられるに至つたのであります。幼稚園が國民教育の上から、ある方がいふものであるといふ位のは、前から常に言はれて居りましたが、この答申は、たゞそいふ意味に止まりません。折角國民學校を造つて新しき國民普通教育を施すに當つて、その就學前の教育が充分に出來て居るこゝは刻下の急務である、斯う言つて居るのであります。これを私は幼稚園の國民普通教育上に於ける位置が、さういふ風に確立したといふ言葉で昨日申上げました。これはお互ひにさりまして重大なるこゝで、充分記憶し、又それが本當に具體的に制度化されて行くことを望む次第であります。同時に之れをもう少し實際化して眺めますならば、國民教育の謂はゞ本體でありますこゝの國民學校と幼稚園との關係の問題になります。從來の小學校と幼稚園との關係は稍々偶然的であり、或はある方がいふ位であり、時には無くてもいふこゝをいふ没分曉漢さへもあつたのでした。それと比べまして、今のやうなこゝから推定して行きますと、國民普通教育の本體であります國民學校と幼稚園との關係が當然必然のものになつて來る譯であります。斯ういふ意味で私は未だ誰にも使はれて居ない言葉であります、また勿論制度の

上にそんな言葉が許されて居るのではありませんけれ共、國民學校さいふ言葉に於て少なくとも意識を新にされましたの並べて、國民幼稚園さいふ言葉を謳つてみたいのであります。

## (二) 從來の幼稚園に就て

然らば今までの幼稚園さいふものはさういふ點に關して如何なる位置にあり、如何なる意義に置かれて居つたのであらうか。これは一應見返して置きたいことであります。その見返して見ますことの必要は、或る方は、何も今更教育審議會の答申を引出して、國民幼稚園なさいふ言葉を用ゐなくともいふぢやないか。日本の教育いづれか國民的ならざるものあらんや。幼稚園もまた當然そうである。斯ういふ大きな意味に於ける言葉をお用ゐるになる方もあるかも分りません。またそれを御自身の信念に移して自分はさうやつて來た。ミ斯う強く御主張になる方も少なくないでせう。否、恐らくこゝにおゐるでになります皆さんが全部御同様の御信念であるさいふことを疑ひません。併し、小學校も大にさうであつたと思ひますのに、それが國家の自覺に基きまして、新時代の推移に基きまして、改めて法制を改正し、名前を變へてまで、改造されることになつたのであります。幼稚園に就ても同じ譯でありますまいか。そこで少し歴史的に考へて見ますと一人々々の胸に持つ信念は兎に角致しまして、明治九年以來、日本の幼稚園は實際の表に現れたところではさういふ具合になつて居たでせうか。さういふことも考へて見る必要がこゝに於てあると思ふのであります。これはもう皆様方が疾うに御承知のことばかりをこゝに引出すのであります。お話の順序上暫くそれを考へて見ませう。

(一) 幼稚園は少なくもその名前に於てはフレーベルに出發する。従つてフレーベルの幼稚園がさうした意味に於て如何なるものであつたらうか、尤もさういふことは、私としては、さうでも宜しいのです。日本の幼稚園はもう疾うに日本の幼稚園でありまして、フレーベルがさう考へたから、その因縁が始終我々に傳はつて居なければならんさいふことは少しもないのであります。日本としてさうでもないものではあります。幼稚園さいふものを創めて立て、吳れた、あの大教育者の考の中に、今我々が幼稚園を國民幼稚園として見つめる點を、さういふ結びつきがあつたであらうか、なかつたであらうか、さいふことは興味の深いことであるとも思ひます。この點につきましてはフレーベルの考を推定して見るだけのことです。我々が問題に取上げたくなります點は、フレーベルが初めて幼稚園を創立しまして、そのさうやかな

る發達からだん／＼普及致しました時に、ドイツ「チェンダーガルテン」即ち「ドイツ幼稚園」といふ言葉を使つて居ります。このドイツといふ言葉を使つて居りますのは、或る意味に於てはドイツ全體に及ぼすところのいふ、幼稚園の普及を冀ひ、また意味する。さういふ心であつたかま察せられるところもあります。併しまた、一面にはドイツといふ言葉に附けて居るところに——單なる世界的幼稚園としないで——ドイツといふ民族意識が籠つてゐることを感じられるのであります。但し我々がはつきり考へなければなりませんことは、フレーベルの時代に於けるドイツは今のドイツとは大變に違なつて居ります。今のでは勿論ない。ドイツカイゼルダムが出来上つた後の状態とも違つて居りました。たゞ、そうした統一的なドイツ民族意識は盛んに識者の内に起りつゝあつた時代ではありますが、纏まつた國家名稱としては未だ充分出来上つて居なかつたのです。つまりさうならなければならぬ時代であつたのです。そこでフレーベルの考は幼稚園そのものといふよりも、フレーベル自身としての愛國的なる考へを此の名に托したと見られるのです。殊にその晩年に於きましては、時代の趨勢と共に、フレーベルの頭にも、此のドイツ的なる心が熟して居つたのでありませうから、その心持からドイツ幼稚園といふ國家意識のあらはれてゐる言葉が用ゐられたのであらうといふことも思はれないではないのであります。そこでフレーベルその人に國民教育者としての意識があつたことをはつきり認められます。従つて、國民教育者として、自分の創設したる幼稚園を國民教育的本質のものとして完成しようとしたであらうとも充分認められます。殊にこれは私共がそう認めるといふだけではありません。この頃、ドイツの教育者はフレーベルが自分の國の大教育者といふことを再認識しまして、頻りにさういふ論法を用ゐるのであります。ドイツ人から見ますと、澤山世界に偉い教育者がありますが、ドイツの教育者も澤山ありますが、國家意識の盛んになりました今日では、スイスのペスタロッチエを尊敬するだけではもの足りなく、フランスのルソーを尊敬するだけではもの足りなくて、自分の國の大教育者としてのフレーベルを高調する傾向が頻りに強くなつて居ります。その最も大きな現れとして、先般、日本に一年滞在しまして、その間いろいろの講演を行ひ、日獨文化關係の爲に力を盡されましたドイツの大碩學で大教育者であるところのスプランガー教授も亦、この點を大に力説して居るのであります。スプランガー教授は丁度この壇の上で（東京女子高等師範學校講堂）「女子教育者として、國民教育者としてのフレーベル」といふ題で講演されました。その講演はフレーベルが幼稚園の教育者であることを元より根本として、然も、もつと大きな意味で女子教育者であつた。更にもつと大きな意味で國民教

育者であつたさいふこを説かれたのであります。

そこで、フレーベルの幼稚園そのものはさうかさいふこは後に譲りますが、教育者としてのフレーベルの信念には國民教育者としての自覺が充分あり、従つてその幼稚園も亦その魂の息吹がふつかゝつて居つたに相違ないさいふこに就ては私は疑はない。疑はないのみならず、この點に於てフレーベルに敬意を表することを忘れてはならんと思ふのであります。併しながら、それを是認した上で、更に次の二つの問題を感じるのであります。その一つは、フレーベルが幼稚園さいふものを思ひつき來つたところの初めの着想の由來に就てであります。そのフレーベルの着想はどの點にあつたかを見ますと、私の考で誤りなければ、或は誤つて居りましてフレーベルに叱られるかも知れませんが、今日、日本の教育者が、國民教育を先づ考へて、そのために幼稚園が大事だと思へる順序は少し違つて居たと思ひます。違つて居たさいふこは直ぐ反對さいふ意味ではありません。皆さんは「違つて居る」言へば「反對だ」直ぐお考へになるかも知れない。殊に暑い時には、頭が疲れてさういふ即斷が行はれ易いのでありますが、たさへば、久留島先生と私は違つて居るけれ共、反對ではない。違つて居るだけであります。即ち違つて居るさいふこは必ずしも一方を否定して居るさいふこではない。その時の意識の表現に於て、何處が特に注意されて居るかさいふこに差が出て來るのです。そこで、その意味に於きまして、フレーベルの幼稚園の着想には、國家を如何にせんさいふこが、その元の元にあつたらうことは確ですけれ共、直接には、幼児そのものを眺めて、その中にある自發性を教育的天才で發見して、それが元になつて幼稚園を造つたのであることは、更めて申すまでもない事實であります。この事は、少し纏め過ぎたやうな言ひ方になるかも知れませんが、言つて見ますと、フレーベルは一人々々の子供に、田舎の、汚い漬垂らしの、行動言語粗野愚鈍であつたらうと思はれます子供にも、その中にある人間の自發性を發見してそれで幼稚園原理を立てたのです。然もその自發活動さいふものはフレーベルをして哲學的な發見でありますけれ共、これを更に當時の教育の傾向に基きまして、相當のさいふまで心理學的に解釋致しました。哲學的にさいふ言葉が少し堅過ぎますならば、子供を全的に把握して、非分解的に斷定的にその自發性を認めるほご愛したと申しませう。フレーベルの兒童愛さいふものがフレーベル幼稚園の根柢であることは申すまでもないのであります。その兒童愛さいふ感情を少し難しく言つて見ますならば矢張り哲學から出て居る。皆様が子供をお愛しになるのは哲學から出て居るか、或は鉛から出て居るか、或はアイスクリームの溶けかゝりから出て居

るか、それは私は知りませんが、フレーベルのもその愛の端の方は勿論感情、情緒的ではありますが、貴君方が子供と共に溶けてしまふのさばは違つて居りましたから、哲學的であつたと言へるのです。然るにそれを教育の方に移して来る段階に於きましては心理的に解釋したのであります。ところで、さういふ風に哲學的に兒童を愛し、心理的に兒童の生活を説明解釋する時、その點に於てフレーベルの觸れて居る子供は個人であります。一人であります。一人いふ意味は外の子供を捨てゝしまつた一人さか、その子供一人の勝手を尊重するいふ意味の一人ではない。畢り人間として、その一つに完成したる人間として、人間の代表として、人間いふものゝ其の完成せる一つとしての太郎、次郎、花子を見るのです。そしてそれを基礎にしてフレーベルは哲學に止めず心理學に止めず、又人間として尊重するに止めずして、教育に移して參つたのであります。これを私は人文的、心理的いふ言葉で現はして置きます。一體あゝいふ偉い教育者の着想がだん／＼傳はつて参りますには、そのまゝつゞつて傳はつて來るのでなく、その中の一部が傳はつたり、いろ／＼變化したりするのであります。フレーベル先生に於ても、或る人はその哲學に重きを置いてつゞつて参らへ行つたでせう。或る人はその心理學に重きを置いてつゞつて参らへ行つたでせう。或る人はまたその個人的の方向に向つてつゞつて参らへ行つたでせう。殊にアメリカにフレーベルの幼稚園が非常に榮えまして、そこでは何かアメリカ式に變つたといふことはいふことではないですけれども、殊にアメリカの中のアメリカ的なるものが特に育ちました。アメリカの地味に於て、アメリカの風土に於て、アメリカの肥料といふことおかしいですが、そこで育ち易いものが育つたといふことが考へられます。日本の幼稚園は元より日本人が造り出しました。外國の人が幼稚園を、舶來のチーズやバターのやうに持つて來て、嫌だといふのに、これを喰はなければ文化人ぢやないぞと無理に喰はせたといふやうなものぢやありません。日本人が日本のためを思つて幼稚園を造つたのであります。ここに初めから日本のものがあつたといふことは斷定する。若しさういふことを言はなければ、少くとも、日本に初めて幼稚園を造りました、これを政府に獻言致しました中の最も大なる人である中村正直先生の如きに對して甚だ理解を缺くものだと言ひたいのであります。本年は中村正直先生の五十年忌に當りまして、先般こゝで講演會を開き、先生を追悼致しました。先生は實に大なる日本文化先覺者でありましたが、幼稚園いふものを時の女子師範學校に造ることを政府に建議せられました一番初めの人として今日傳へられて居ります。この先生は實に日本を愛する方でありました。日本のためにこ

そ幼稚園を造られたのでありますから、即ちその意味に於て國民幼稚園であつたことを誰か否定せんやであります。しかし又、これを否定することなくして考へて見なければならんことは、當時、さういふやうに今まで幼稚園といふやうな教育のなかつた時に、中村先生はイギリスで見て來られました。そこで勿論日本のために必要だから幼稚園を造らうとされたのでありますが、これは日本のためにいふものだと思ふ前に、これは哲學的に、心理的に、個人的に、實にいふものだ。ミクスういふ感想が強くあつたらうことは察せられるのであります。即ちフレーベルの幼稚園の教育者としての信念よりも幼児を教育するフレーベルの哲學的、心理的、教育的の考なり、その方法、これが今まで日本になかつた新しいもの珍しいもの、勝れたるものとして先生の眼を見張らせた、ミクスういふやうに私は察して宜からうと思ふのであります。

丁度、よそから子供の土産に物を買つて來る場合に、我が子のために買つて來る。イギリスからお土産を買つて來ることは、我が子をイギリス人にしようためにイギリスから洋服を買つて來たり、イギリスの本を買つて來たりするのはありません。愈々日本の子供たらしめようとして買つて來るのであります。しかし又、イギリスでその品を感じする點は、何んさよく出來て居る哲學的、心理的、個人的玩具であらうか、何んさよく出來て居る兒童の着物であらうか、ミクシして持つて來るのであります。そこで先づ日本の幼稚園は、明治五年に學制が發布せられ、明治七年に幼稚園が建議せられ、實現したのが明治九年、實に日本を本當の日本にしようといふ非常なる熱意が漲つて居る最中に出來て居る幼稚園でありますから、當然國民幼稚園と言つていふのですが、併し先づ取入れた、あの形、あの姿、あのやり方といふものは哲學的、心理的、教育的であつたといふことは言ふまでもありません。

(ロ)次にその後に至り、幼児教育を現代的發展に持つて來ました大きな原因は、心理的、哲學的、教育的以外に、社會的といふことがそんなに大きな働きをして居つたかは申すまでもない。今日託兒所、保育所と言はれて居りますが、要するに幼児期を大事にするといふことが社會的必要から大いに起りました。その社會的必要といふことは社會即ち國家にあらず誰が言ふや、ミクスういふことが言へる。國家にあらざる社會といふことを考へるのは今では無理な位でありますから、その意味では社會的といふことは國家的といふことであります。少なくとも今日の意識に於てはさうであります。明治の間ずつと行はれて來ました通念はその通念の本源であるヨーロッパの、アメリカの、ソシアルいふ言葉は、國家といふ締括りの纏まつた意味よりも、その中に動いて居る人間の集りを強調してゐます。つまりその中に個人がうご

めいて居るのであります。その社會に於て、所謂社會的の關心をもつて幼児の問題がいろいろに考へられたさいふ時に、それは即ち國家であるのでありますが、意識の表に於ては、國家さいふこより、社會さいふこを考へたのであります。斯ういふ意味に於きまして、我が國の幼稚園は、そのもつて來ます元のフレーベル幼稚園の發生から申しまして、それがフレーベルの意識の上に現はれて居りますいろ／＼な表現の研究に於きまして、それがいろ／＼なところに傳はつて發達しました、その経過に於きまして、それが初め日本に取入れられました點に於きまして、今日の國家教育機關としての幼稚園は少し變つてゐます。勿論明治以後の幼稚園に、國家意識を忘れた幼稚園はありませんけれども、併しまアその心持の上つ皮の動きに於ては、皆さんが幼児を見る時に「あゝ、國民が來る。國民が左から來なされる。さア鍊成するから來なさい。鍊成せざるべからざるが故に來なさい」とは言はない。又「おう、自發活動が起つた。愛すべき太郎が來る。哀むべき社會の缺陷に惱める子が居る」といふやうなことで、皆さんの人文的、心理學的、社會的、教育的な感情によつて幼稚園をやつておいでになつたさいふこは、遠慮なさる必要はありません。それで宜しいのです。それで宜しいのですが、さうして、その根柢には、明日幼稚園に行つてこの歌を唄はうか、この話をしようか、皆國家的であつたであらうござはこれも疑ひませんけれども、だから言つて子供の前に出て「國家々々」「國民々々」と言つてばかりなればならんことはありません。幼稚園では建國童話ばかり、三匹の子豚「アンデルセン作皆いかん。何んでも建國童話でなければいけないさいふこになつたらば、これは却つていけませんまい。何んでも國家的でなければならんぞ、もう毎日々々私の「國旗振れ」の遊戯ばかりやつて居なければならんさいふこは、却つて弊がありませう。ですから實にフレーベルに於て、あの大なる幼稚園は、而してフレーベルよりすつと皆さんの胸に通つて居る、その尊きものは、それはごちちから言つても一つも悪いのではない。悪いのではないけれども、若し萬一、億一、千一、百一、一、その方ばかりに斯うなつてしまつて「國民教育は國民學校になつて始まることである。幼稚園は、エ、ウ、チ、エ、ン、である。なアに國民なんてこゝは關係がない、おう聖女、おう兒童的、それでいゝのだ」と斯ういふことになると日本の國家が幼稚園に要求しようとして居ります只今の意識は、少なくとも、その強度に於て添はざるころがあつては濟まんさいふこになるのであります。

この心持をすつと集約して、フレーベル幼稚園、アメリカ幼稚園、宗敎主義幼稚園、心理主義幼稚園、さいふやうな



ものよりも國民幼稚園を申したい。あの國民學校の科目教科が「皇國ノ道」に歸著するを、昨日こゝに大書致しましたが、あれと同じ意味に於て「皇國ノ道」に歸著するをいふことを矢張り幼稚園の大眼目としなければならぬといふことになるのであります。

丁度時間が來ましたから、この點はこれで終ることに致します。

## 五 幼稚園と國民學校低學年

### (一) 從來の考へ方

昨日は幼稚園が國民教育の系統の中にしつかりした位置を持つことになつた。同時に小學校との關係が必然的のことに考へられるやうになつた。従つてさうした意味に於ける幼稚園は假に心理學的の理由に基いて出來た幼稚園、或は人文主義的な、その人の人生觀に基いて出來た幼稚園、或は社會的の意味に於て必要とせられた幼稚園、といふやうなものに違つて、専ら國民的、國民鍊成のための幼稚園といふことになつて來るのでありますから、假にこれを國民幼稚園と名づけてもいゝのではないか、斯ういふやうなことを考へたのでした。斯ういふことは從來の幼稚園の考の中にも、それが日本の幼稚園である限りなかつた筈はないのであります。殊に假にさういふ表看板をさられるにしましても、保育者である日本教育者の信念の中には斯うしたものがあつたに相違ないのであります。然し幼稚園といふものが、その名を持つて居ります由來、それが世界的に擴がつて居りました譯合、さうして、それが日本に、その世界的なる幼稚園が傳はつて來た關係からしまして、或は日本が日本のために生み出したといふやうな意味から自覺して見ますと、少しさうした意識が少なくも裏に置かれてあつたやうなことはなからうか。殊に相手が小さい子供でありますから、そこに國民的と言ひましても、まだしつかり少年期の如く、殊に青年期の如く、その意味が確實に來ない趣きもありまして、何んもなく或る軟かい心持ちさか、或は人類共通の教育的やさしみさかといふやうなことが幼稚園の根本本質に成り勝ちであります。これはそれとして、非常にうるはしいことでありまして、將來と雖も、決してこれが干枯びてしまつてはならぬのでありますけれど、こちゝに固まつてしまつてはならぬのでありますけれど、然し先づ理論的に國民鍊成といふ大きな意圖に基いた知識や

感情や、さういふものである國民鍊成といふ教育的意圖、それに基いた幼稚園が設立される。今まで設立されて居つた幼稚園はその意味に於て意識を新にされる。斯ういふやうなことを考へたのであります。私共は從來のお互ひのやつて居りましたことが國民的でなかつたといふことを假にも思ふことは出来ません。また人からさういふことを言はれましたならば我々はそれに決して従ふことは出来ません。充分國民的であつたのでありますけれど、同じく國民的であつた日本の小學校が特に國民學校と名を變へてまで、その意味を強くして來る今日に於きまして、幼稚園もまたその意味を、昨日の歌の文句を借りますならば「もつこ、もつこ、もつこ」その強くしなければならん。節が甚だ難しいのであります。」「もつこ、もつこ、もつこ」やらなければならん。斯ういふことを言ひたいのであります。

そこで、さういふ基本的な考へ方の話は、そこで止めまして、それから出て來る實際の問題としまして、幼稚園と小學校の關係が極めて必然になつて來る。その小學校への繋がりには先づ低學年に於て繋がるのであります。低學年と幼稚園の聯絡關係といふことが實際的に——觀念的でなく實際的に——さうなつて來るだらうか、といふ問題が今日の問題であります。これは今日始まつた問題でなく、從來永い間皆様が保育研究會をお開きになりますと、必ず一つづらる此の問題が出て、幼稚園と低學年の聯絡を如何にすべきか、と恰も敵味方でありましたものが、さうして和睦しようかといふやうな恐らしい顔でこれを更めて考へるといふ行き方であつたのであります。これは私共としましては實際は非常におかしいことでありました。幼稚園とは家庭教育を補つて、その幼児期の發達を完成させてゆくことが任務でありますのは、それがために家庭から小學校への聯絡が問題にならないで、幼稚園から小學校への聯絡が特に問題になるといふのは特に變なのであります。幼稚園で何か特別の色でも塗つて、小學校へ送るならば一應洗つて來いといふやうな、或は幼稚園で子供の魂を少し抜いて居るならば、もう少し入れてから來いといふことがあるかも知れない。幼稚園で小學校へ行つたならば、あの先生を馬鹿にして、さうして言ふことを聽くな、小學校の先生がざれだけの腕節をもつてゐるか分らんが、存分教場で暴れてやれ。日頃斯う言つたことをけしかけてゐるのです。そこにいざ行くとなつた時多少折合ひをつけなければならんことありませう。ところが幼稚園は教育をして居ることは言ひますものゝ、幼児期の家庭教育を補ひつゝ完成して居るのです。その意味に於て普通のことをして居るのに、更めて小學校との聯絡に工夫を考慮しなければならんといふことは非常に變であります。そこで議論はさうであります。然し實際の問題が始終起つて居るのを見るに、實際にさういふ聯

絡を考へなければならん點は、何かそこに引つかゝりがあつたのであらうと思はれます。試みにそれを考へて見ますと、考へ得られるさいふ意味に於きまして二つのこごが考へられる。二つのこごしか考へられない。一つは幼稚園が幼児の生活を完成する任務でやつて居りながら、またその心算で居りつゝも、家庭の中に成長しました子供、教育的にはさうであつたか知れませんが、生活的には極めて自然である家庭の中に育ちました幼児、積極的に幼児性がされだけ訓練されて居るか、それは分りませんけれ共、少なくとも幼児性の素直な自然なところが少しも損はれなくて行くであらう家庭と比べまして、幼稚園は二つのこごでそれと違ひがあります。一つは何んと言ひましても大勢寄つて居ります。或る種類の幼稚園は幼児期に相應しくない數の誤謬を起して居るかも知れません。あの五歳の子供が暮すには大き過ぎる社會形體を與へて居るかも知れませんが、幼稚園の先生は母が自分の子供を教育するよりも、この子を教育しなければならんさいふ意識に於て非常に強い。毎朝幼稚園で心身を發達せしめてやらう、斯う考へていらつしやるのでありますから、それが、そのこご自體が何も特別のこごを内容として居るのではありませんけれ共、それをしようとする意氣込みに於て多少いかつゝいものがあるかも知れません。幼稚園の先生はやさしき顔でいかつゝいこごをする人だ、斯う言つてもいゝこごがあるかも知れません。笑顔と言つてもお母さんの笑顔よりも少し濃厚であるかも知れません。(笑聲)況して子供に引摺られて遂に子供に化せられて行くさいふ意味に於て、餘り教育的でなく見える母と比べますさいふも、幼稚園の先生は責任上大いに幼児を對象として凄譯です。(笑聲)幼児を對象として教育なさる關係上、不知不識その教育は強烈と言はないにしても濃厚であるかも知れません。その二つの結果が不知不識と小學校に行く子供、フラ／＼と小學校に行く子供と比べて、多少の違つたところを生ずるかも知れません。斯ういふこごが私は從來の幼稚園にあるさいふ意味ではなくて、考へ得られるこごだ、申すのであります。二つしか考へられないさいふ、もう一つは小學校の側でありまして、小學校が小學校といふ敷居を高くして、その敷居を跨いで來た子供には學齡に達するや否や、それが何歳であらうと低學年であらうと、そこは子供の世界といふより教育の計畫したる世界であるさいふこごを非常に強調しまして、然もその教育は相當に古い時代に考へられて居りましたまゝの考へ方をそのまゝ續けてやるさいふやうな場合に於きましては、その小學校の教育が——少なくとも教育の仕方が——學校教育に馴染らされて仕舞つたるものには極めて適當でありませうけれ共、未だ學校教育に馴染らされない低學年には甚だ不向であるこごもあり得るのであります。殊に小學校の先生が若しも氣長に徐ろに緩々こ

の子を小學校の兒童にしようとする考へてやつて居て下さる場合は、ものが穩かに行きますけれ共、一體、人間が或る事に力を入れますと、初めに於て特に大層力を入れるものであります。初めは脱兎の如く終ひは處女の如く、と言つては、この席ではおかしな言ひ方でありませうけれ共、さういふ初めは處女の如く終ひは脱兎の如くさういふよりも、實は初めの方が勢が強いのであります。日記帳にしても元日ばかり大きく書いて、だん／＼薄くなる。講義を筆記するにしても初めはしつかり書いて、二時間目あたりからだん／＼雜になつて来る。これは逆であるべきであります。私などは朝は少し寢惚けて居りますが、語つて居る内に高潮し來つて、時の移るを忘れて次の人の時間に喰ひ込むに至るのでありますけれ共、普通熱心家は初めを熱心にする。學校でも、いづれ上級になればするだらう、初めの内はちやんさやれ、さまさかさういふ譯でもありませんが、教育は先づ一年生にありさういふことになりませう、低學年が悉く内容の貧弱な辭に、形式だけいやに嚴かなやり方でやられる場合も考へ得られるのであります。毎朝「皆さんは小學校の子供になつたのである、夢おろそか、仇おろそかに……」なんて言ふものですか、子供は家に歸るに非常に疲勞する。小學校一年生の教室で私は屢々齒を喰ひしばつて居る子供を見ることあり得るに考へ得られるのであります。これはさういふことを必ずしも批難してのみ居るのではない、寔に御熱心なる結果でありますけれ共、それでは移り變りの聯絡がうまく行きませぬ。するに、或る人は「その弊害は何も幼稚園から行つたものばかりでなく、家庭から直ぐ行つた子にも同じ無理ではないか」と言ひますが、家庭から行つた子供は、家庭は家庭、學校さういふ施設的教育機關は別個のものに考へて行きますから、そこでさういふものかま心得てゐるのであります。幼稚園を通りました子供は、なまじ幼稚園さういふ教育機關で教育さういふものを和かに與へられて居りますために、同じ施設教育機關なのになぜこんな違ふのか、まさか子供がさういふ教育理論に首をかしげる譯でもありませんが、言つて見ればさういふことが起る。その關係からしまして私は從來さういふも、幼稚園さ小學校低學年の聯絡の問題の如きは考へるもつらいほゞに變なこゝは思つて居りました。教育の自然の問題ではなくて、誤りに對する問題であるに考へて居りました。併しさういふことが起り得る小學校低學年であつたさういふことは、その受持ちの先生のお一人お一人の過ちさういふよりも、低學年そのものゝ一般問題として認められない譯でもなかつたのであります。

## (二) 之れからの低學年と幼稚園

(イ) 然るにこの度、國民學校になりました場合、その低學年はさうなるかといふ問題であります。今まで考へられました國民學校の國民的意識に於きましては低學年もまたその國民的意識の強い教育を受くるのでありませう。即ち今までの小學校よりはいろ／＼なことに、隅々ささなく國民的といふことが、太郎的、花子的といふよりも強く入つて來ませう。併し、この點では、幼稚園も國民幼稚園になる限りは少しもそこに喰ひ違ひを感じませぬ。幼稚園が國民的鍊成に向つての方向を少しも與へて居ないで、急に國民學校低學年で國民的といふ方に向けるをすれば、これは一寸おかしな言葉でありますけれども、子ぎもが面喰ふかも知れません。けれ共、小學校が國民學校となるに同じやうに幼稚園も國民幼稚園となるならば、その點に於ては完全にうまく行くのであります。私はこれから、或はこゝにおいてになります皆様の中にそんなことはありませんが若し萬一、國民的といふやうな考なく、全く幼兒藝術と言つたやうな趣旨だけで幼稚園をやつてゐるやうな場合があつたならば、これは國民學校への聯絡は少し繋がりは悪いかも知れません。踊りの學校から小學校に行くことは聯絡がつかない、それと同じことになります。長唄のお稽古、踊りのおさらひから、小學校に行く時に、何も小學校の體操と聯絡すべきだといふことはありません。或は或る意味に於ての宗教幼稚園、即ち國といふものよりも、もつと超國家的のことにのみ重きを置かれて居る幼稚園から、國民的といふことの強い國民學校の一年生に入りますと、少しこの繋がりに疎いところがあるかも知れないのです。決して反國民的幼稚園といふものがある譯ではありませんが、國民學校低學年の精神を、その意識、その氣持ちの入れ方が釣合つて行きませぬといふと、そこに聯絡は保てんかも知れません。併し、そんなことは私は問題にもしません。これからはみんな國民幼稚園になると思ふのでありますから、そんなことは問題にしない。

(ロ) そこで、さういふ教育内容に於ての聯絡關係ではなく、教育の方法、或は方法から生ずる形體、それに於ての聯絡關係がさうなるであらうかといふことが實際的問題であります。今までも斯う言つて居りました。幼稚園では自發を重んずる、小學校では注入する。幼稚園では生活を重んずる。小學校では教育を重んずる。幼稚園では具體的である。小學校では抽象的である。さういふ風な違ひが若しあるとするならば、それはうまく繋がりにくいものでありませう。そ

ここでさういふことを心配する意味に於きまして、幼稚園の終ひ頃には小學校的といふ言葉に於て現はされる教授的、注入的、或は形式、訓練的、斯ういふやうなことを幼稚園でも馴らして行くことが必要だも考へられた位であります。お前は今まで幼稚園で楽しい生活を暮して居つた。これからはやかましい小學校に行くのであるぞヨ。可哀想に、このまゝ行つては尙苦しいだらう。世の中は皆こんな譯ではない。だから少し躰けて置く。お前は今まで家に娘として暮して居つた。今はお嫁に行く、さうするに向ふに行つてはちゃんとしなければならん。少し練習をさせる。夏だからさう言つて脚を出してはいかん。夏だからさう言つて扇を使つてはいかん。夏だからさう言つて笑つてはいかんといふことはありますまいが、その位にですネ。ところが今度の國民學校低學年、國民學校といふ名にこだはります、大變目的意識の方が強くなりますが、教育方法の方面に於きまして大に變つて來るのであります。先づ教育審議會に諮問案が出ました時に、それを説明した當時の伊東文部次官の言葉があります。それをまた協議して答申された教育審議會の答申の言葉があります。更にその後、特別委員會の委員長の説明となつて現されて居る言葉があります。更にその後、文部省教則案施行規則になるであらう發表があります。更にそれを逆にさかのぼつてはもう一つずつ前に——教育審議會といふ立派なしつかりした形になります前に——文部省が教育を改造しようといふ意圖を、自ら現したか、新聞社が探り出したか、新教育はこんなやうに變らなければならんといふ意見が外に現れたことが時々ありました。さういふのを、あの言葉この言葉引いて來ます。さういふ言ひから全體をひつくるめて抜き出して見ます。さうするに、その全體を通じて、低學年を、方法上幼稚園に似たものにして行く傾向が考へられて來るのであります。勿論幼稚園のやうにしように、そんなことを意識して考へたものではありません。まして、「あゝ、國民學校低學年、今まで小學校として妙に幼稚園と別にのみ構へてゐた低學年、それが、そら見たことか、負けたらう。幼稚園のやうになつて來たぢやないか。なんてことを言つてはいけません。さうぢやない。さうぢやないけれ共、然し有難いことに——謙遜して申しませう——有難いことに、或は現代教育の進歩として當然——何んだか有難くなさそうな言葉になりましたが——當然のことで非常に兩方の關係が似て來ました。似た言ひ言つたら、「なアに兄が弟に似るかい」に斯う言ふでせう。兄が弟に似て居るよといふことは餘程變な理窟なんでありまして、そんなことは言へないのであります。兎に角似て居る。同じく親の子ですもの似るのが當然です、その似て居るさういふところをいろいろ申して見ます、何も低學年のところで似て居るさういふだけではなくて、國民學校といふ

教育に於て、その教育方法の方針をすることが大層變つて來て居るのであります。第一主知的でなくなりまして。但し、主知的といふ言葉は餘程靜に考ふべきでありまして、主知的でなくなつたから無知の方がいふといふ、そんな譯ではない。身體が丈夫で、情操が豊で、知識なきこそ宜けれといふものではありません。知識が人生に大事であり、教育に大事であることは申すまでもない。唯、知を知として抜き出して取扱ふといふことをしないといふだけのことであります。それならば知を知として抜き出すといふことをしないといふ言ひ方ならば、外の感情でも身體でも同じぢやないかといふことになります。身體は身體だけ抜き出して健康本位なんてことは許せません。感情本位、そんなことも許せません。中にはそんなのが居りますネ。外に取得はないが身體を見てくれエ、それはまア結構なことでありまして、教育としては何もそんな偏つたことぢやアないですから、或は私は身體も弱いし、知識も弱いし、感情は豊なのよ、これは非常にやさしいことですけれ共、病的詩人でも作るといふのならそれだけのことであります。だから知識だけを抜き出すといふことを問題にしないで、それだけ抜き出した、これだけ抜き出されて教育された、といふことは許されないので。だから何も知識だけのところを問題にしないで宜しいのであります。これは從來の教育の實際に於きまして身體よりも感情よりも知識を主とする抜き出し方が非常に強かつた。恰もやゝかり、蟹の手のやうな工合に知識一つが偏りたる發達をして居る。私はあのやゝかり蟹のこんな(手眞似)が出て居て、こんな風なのがあります。あれを見て、あの大きな手を見て、小さくすればいいのにと思ふよりは、もう一方の手も斯う出ればいふと思ふのであります。こつちの大きいのを小さくしようといふのでなく、こつちの方も出し、こつちの方も出せば、殻も大きくなり、身體も大きくなる。そこで主知的でなくなるといふことの眞の意味は、教授・訓練・養護を分離的ならしめさへしなければ、直ぐ解決されてしまうのであります。主知的といふ言葉を攻撃します時に、知識を目的にすることは大間違ひであります。まだくくくく知識は盛んにならなければならん。けれ共、その知識といふものを教育する時に知識を主にする教授を矢鱈に抜き出して、その傍に一寸、刺身のつまのやうに訓練がくつついて居たり、養護がくつついて居て、ふさするさ見失はれてしまふといふやうなことであつてはならない。これを國民學校全體として教授・訓練・養護を分離ならしめてはいけないといふ言葉で言はれて居ります。教育の根本原理として分離してならないのだと申します。教育の根本原理に於て分離しない上に、その年齢の特質的に於て分離しないといふのが幼稚園の實際であり低學年の實際であります。丁度、低學年の時は幼稚園に近い生活といふ特質

を持つて居りますから、國民學校全體の中でも殊に低學年のところではそれが一層さういふ形に於て行はれるであらうこゝは素よりであります。幼稚園は、保育は、さうにでも定義出來ますが、保育は教育だ、だけれ共、さうまでも分離的にしないのです。太郎の身體も心も心身一如。幼稚園に修身はない。幼稚園に體操はない。心身一如。幼稚園に教授の時間、訓練の時間、そんなものはない。總て渾一、これが保育であります。その幼稚園は、今言つたやうな意味に於ける國民學校教育の方法は非常に近づいたではありませんか。然も今までの小學校でもさういふことを新しき教育學説として主張せられた人は澤山あつたのでありますけれ共、國家はそこをさう強く示して居なかつたのであります。それが今度しつかり示されて來ますと、そこに幼稚園を致しまして、垣根もない向ふ隣りに、實に同じやうなものがあることを感じて來られるのであります。即ち主知的でなくなるのであります。主知的でなくなるならば主情的になるが、主體的になるか、そんなことではない。何か主になつてはいかん。人間全體、生活全體でなければいかんといふ譯、そのことを更に教育の方法に於て最も重き位置を持つて居ります學科を元にして考へて見ますと、從來の教育は學科を元にして何んさなく抽象的でありました。抽象的であつたといふ言葉を直ぐ使ふに餘り行過ぎるかも知れませんが、先づ分科的であつた。これは前に學科といふものが教育に於て出來て來る由來を簡單に申しました時に既に觸れたことでもあります。數へ方は數へ方で數へ方、理科は理科で理科、圖畫は圖畫で圖畫、斯ういふやうに、學科が生活必須なるものをあれもこれも拾つて來してもさうなりませんし、學問から天降つて來してもさうなるのであります。従つて學校教育に於ける學科は分科的に取扱はれるのを、誰も疑はないやうなところになつたのであります。分科的に扱ふといふこと、そのことが必ずしも悪いのではないが、分科的に扱はれると、生活そのものゝ具體性がなくなつてしまふといふことが我々の心配する點であります。保育の方で始終私の申したところである。子供が花園に咲いて居りますダリアの花を見ました時に「綺麗だなア」と言ひますと、先生は直ぐに「あの花は何んといふのですか」「ダリア」「植物學」「幾つダリアが咲いて居ますか」「一ツ二ツ三ツ四ツ五ツ六ツ」「あゝ算術」その内に誰か行つてそのダリアを取る「そんな亂暴なことをするのばダリア」これは訓練といふのです。蝶々が飛んで來ると、先生はダリアを見せようと思ふから、先生の教育的計畫をあつた蝶々に取られることはくやしいのであります。「蝶々あそこから來い、動物學の時間來い」なんてことを言つて居りますが、子供は蝶々に氣をさられる。さうすると先生は「今は植物學」斯ういふことを分科的といふこととして、その先生の心持が狭くて外のもの



は見えない。子供にこりましては、その花園、ダリアが咲いて居る。ダリアが咲いて居るから蝶々も来る。太陽が斯う照つて居る。そのいろ／＼な生活全體の、そこに行はれる舞臺から、花を見る時は花、蝶々を見る時は蝶々、數へる時は數へる時、色のこまは色。これでは全く抽象的であります。幼稚園ではさういふこまをしません。但しこれは、幼稚園といふものは非分科的で何んだかボンヤリであれいふのではありません。花園へ子供を連れて行つて「あゝ花園よ、花園よ、何があるかは知らねども、あゝ花園よ、花園よ、分科抽象何かせん、あゝ陶然と睡らんか」さういふのが幼稚園ではない。けれ共、反對に、すべてが餘り分れてしまつては、花園といふ生活の具體性を失はれてしまふこまが我々の非常に問題にして居つたこまであります。こまが今度の國民學校は、さういふ抽象的、分科的になるこまを出来るだけ避けようとして居るのであります。この間こまに表に書きました「皇國ノ道」に歸せしめるこまが、これが非常な中心觀念であります。そのために地理が必要だ、算術が必要だ、國語が必要だ、こま考へ方ではなくて、國民科が必要であり、理數科が必要であり、體鍊科が必要であり、藝能科が必要である。斯う考へる。即ち國民學校の今度の言葉の使ひ方としては、統合されて居るこまであります。統合こまは從來の教育學上の言葉としては、一度分けたものを集めるこまに時に使ふ言葉でありますから、今日言はうこまする意味さびたりこま合はん歴史的因縁がくつついて居りますが、國民學校では分れて居るものを合せるのでなく、合つて居るから合つて居る。これは「皇國ノ道」に歸せしめるために出たこまでありませうけれ共、方法の問題として移して見ましても、吾々の非常に嬉しい點であるのであります。その統合こまの外の外に統合こまの字が國民學校に關する言葉のいろ／＼なこまに出て居ります。この統合こまの言葉は別に國民學校のいろ／＼なこまのところで用語上の定義こまのものが出来て居りませんから、解釋の仕方がいろ／＼になるであらうと思ひますが、まア言つて見ますれば、統合こまは縦の勢ひを持つて居るものであります。即ち「皇國ノ道」に歸一するべく統合して居るのであります。あらゆるものが——妙な譬へであります——太陽を中心としてつゞつ引上げられる場合があつたこまにするならば、廣い野原にありますいろ／＼のものが太陽に向つてつゞつ斯う圓錐形的に引上げられると見れば、これは縦に纏まりがついて來る統合であります。科目が教科に統合されて居るのは、それが——澤山の科目が——たつた五つの教科に統合されて國民鍊成に歸一するこま、斯ういふ縦の問題を考へられます。縦であります、その統合されて居る何處かに、斷面を切つて見ればいろ／＼のものが一緒になつて居るこまであります。勢ひが縦に伸びて

居りますが、然しそのところは一緒になつて居る、その横、横斷面的に考へました集り方、これを綜合と言つて居るのであるが、私は解釋して居る。そこで——稍々教育思想に關するお話になりまして面倒臭くなつて相濟みませんが——綜合教授といふ言葉は何かこの國民學校の語の起りましてからの話ではなくて、その前から今日の教育方法の改造の上で新教育學說として起つて來たことであります。そのいろ／＼起つて來ました綜合教育といふものは、必ずしも綜合といふことを考へることもなく、唯、綜合といふことだけを考へた考へ方も澤山ありました。畢り離れ離れにならないやう、分離しないやう、よく私が例に引きまして皆さんに笑はれます、所謂五目飯學說、五目飯學說といふのはいろ／＼のものが綜合されて井一つになつて居るのであります。あの中には米も入る、玉子も入る、椎茸も入る、いろ／＼のものが入つて一つの綜合體になつて居る。あれを離れ離れに喰べないで綜合的に喰べるのが五目飯の喰ひ方である。こんごは一つ涼しくアイスクリームにしても、いろ／＼のものが混つて居りますけれ共、アイスクリームといふ一つに綜合されて居る。あの中の冷めたさを感じ、甘さを感じ、匂ひを感じ、滑かきを感じ、それだけではアイスクリームでも何んでもない。あれが一つに入つてアイスクリームであるのです。けれ共、これはいろ／＼の味、いろ／＼の食物が綜合されて居るだけでありまして、綜合といふことに何んの關係があつて言つて居るのではない。まア事によつたならば、變にこじつければ、あゝするところによつてお客さんに出すも、即ち何處かに捧げて行くために井が便利だといふ理窟がつくかも知りません。

(二)そこで、その綜合といふことが國民學校をしましては綜合を重んずるほごに主眼にして居りません。國民學校の教科は「皇國ノ道」に歸一するところをもつて本旨として居ります。そのために綜合して行くといふことについては強く主張して居るのであります。學科自身の關係が互ひに綜合するといふことについては綜合ほご強く言つて居りません。さう申しますのは文部省が大變に今心配して居ります。國民學校の教育方法は綜合的なりといふ言葉では非常に誤解されるといふことを申して居る。しかし、私として考へを言はせていたゞけば、成程、綜合でありますから成程本旨は綜合、大きな狙ひ所は綜合であります。子供にさう向つて行く面は——教育の方法は——綜合でありまして、教育の方法は綜合でありませんが、子供の觸れて行きます面としては綜合と思ふのであります。綜合のための綜合ではないかも知れないが、綜合したものが綜合に感ぜられるも、斯う私は思ふのであります。その綜合といふことが幼稚園の實に今までやつて來たことでもあります。こゝで大變に關係が近くなつて來たと言へる。殊に國民學校の方で綜合といふことを國民學校全體に互つて適

用しようといふことは文部省の言つて居ないところではありますが、低學年に於ては今まで絶対に許されて居なかつた綜合が許されたのであります。これは大きな問題であります。今まで日本の小學校に於きましては綜合教授といふことは法令をもつて許されないのであります。この來年三月までは許されないのであります。四月からこれが許されるのであります。

但し、國民學校全體が總て綜合主義でゆくといふことは、申せないのであります。そこで充分なる用意を遂げて、地方長官の認可を受けた時だけそれが許されるといふ條件が付いて居ります。低學年は綜合なるべしと言つて居るのではなく、地方長官の認可を受けなければならぬといふ、大きな條件がくつついて居ります。私の話のそのところを取りそこねて、國民學校低學年は皆綜合になつたのであると思はれてはなりません。理論は理論、學説は學説、大事な日本の子供を取扱つて貰ふのに萬一間違つたことをされては困るので、大事に大事をまつて、綜合といふ、まア新しい、未だ充分經驗されないことは、うかゞとして危険でありますから、そこでさういふ條件をしつかりくつつけてあるのであります。

併し、何んだ條件付きかと言つてしまつてはいかん。世の中こゝは實は何んでも條件は附いて居ますヨ。教育は悉く條件付きであります。「日本の子供を貴女に託す、よしなに取計はれたし。」なんてことはありませんヨ。教育は皆國家が條件を付けて居ります。ですから綜合といふことについても條件がついて居つてもそんなに驚かないのであります。同時にまた條件付きではありますけれど、綜合といふことが條件付きなほど重んぜられて居るのである。斯う私は解釋するのである。綜合といふことを言つては置くがさせない爲に條件を附けたといふやうな氣味悪いことは、私のやうな朗かな人間には考へられません。(笑聲)綜合教授に條件をつけて居るのは、よき綜合の生れかしこ、さういふ意味合ひに私は喜びたいのであります。即ち國家は低學年の教育に於て綜合といふことが本當に行はれ、ばいゝことだといふことを是認して居るのであります。こゝから先は私の勝手な空想、何年かの先には條件なんか附かなくともいゝほどに綜合が行はれることを願つて居ります。文部省がさう言つて居るのではありませんヨ。私がさう言つて居るのですヨ、そこで、兎に角として、さういふ傾向になつて來た。低學年がさういふ傾向になつて來ました時に、何んぞ幼稚園と關係が近いであらませう。幼稚園ではもう疾うから綜合をやつて居ります。保育項目を一つ／＼取扱ふべしといふ項目は何處にもありません。私は古くから誘導保育案といふことを提唱して居りますが、あの誘導保育案が良いとか悪いとかいふ私の主張ではなく、誘導保育案といふものを考へる経路を幼稚園教育者として苦心致して居るのであります。如何に、あの手技と談話と圖畫と觀

察と遊戯と離れ／＼の取扱ひをさせないやうに生活に綜合させようといふことに苦心し來つたのであります。今度は低學年もさういふ精神に向つて居ります。更に、例へば理數科といふ教科があります。その中には算數と理科が入つて居ります。子供は理數科として受けるのであります。今日は理數科といふのであります。その時にお母さんは「先生はおるか」(理數科)と言ふかも分りませんが、まあさういふやうに算術と理科といふやうに言はないで、その理數科の中に算數と低學年から理科があります。皆さんお悦び下さい。何んだ嬉しくもないとあつて仰しやるかも知れませんが、從來の小學校では算術が一年に五時間、二年に五時間、三年に六時間、理科と名のつくものは無し、斯ういふのであります。幼稚園の觀察は理科ではありませんが理數科的の性質を多分に帯びて居るものであります。その幼稚園ではグリアも存分に與へて居る。教へはしないけれども共與へて居る。蜂を捕つて來て、蜘蛛を捕つて來て、あの通り皆さんが苦心慘憺して自然を與へておいでになります。ところが理科といふものは小學校では四年にならないとない。貴君方があんなに子供と汗を流して蝶々を尋ねて、さうして「これはねエ、紋白蝶ヨ」を斯う教へることもなく仰しやる紋白蝶は、小學校では四年になつて初めて出て來ます。國民學校では理數科は同じく五時間でありますが、理數科として、一年から理科が入つて居るといふ形體になるのであります。即ち貴君方の觀察は小學校へ直接にすつと續くのであります。「蝶々に會つたは、想へば四年の昔」(いふことにはならないのであります。直ぐ小學校の低學年で問題になるのであります。音樂といふやうなものが三年からでありました。或は圖畫も矢張り三年からでありました。これも藝能科といふ意味に於きまして一年から入つて居ります。想へば古への小學校低學年は、あの子供の傍に飛んで居ります蝶々を見ても櫻の花を見ても教科としては與へず、お花見に行かう、それは學科ではないゾ、享樂だゾと言つて別にやつて居つた。或はあの生れた時から繪を書いて、幼稚園ではクレオンをあんなに書き潰して繪を書いた圖畫が、圖畫といふ學科に於きましては小學校に行くに三年に行かなかればなかつた。だから生活は生活、教場は教場といふやうになつて居つたのであります。今度は實に幼稚園から低學年へスラ／＼と續いて居ります。この時に當つて幼稚園が抽象的な、分科的なやり方をして居りましたならば實に遅れて居ります。小學校に合はせるために斯うして居るといふ間に、國民學校がお先に御免を被つて居りますから、うかうかして居られません。(つゞく)